

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	温熱感小委員会	主 査 名：室 恵子 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：永田 明寛
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	温熱感・快適性研究の今後の発展の促進と展開を模索する。 初年度：関連する資料を収集・分析し、活動の方向性について検討する。 2 年度：検討結果を踏まえ、公開研究会等の開催を計画する。 3 年度：調査・検討を継続する。 4 年度：シンポジウムまたは公開研究会を開催し、情報発信を行う。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：室恵子 (足利大学) 幹事：後藤伴延 (東北大学)、中野淳太 (東海大学) 委員：久保博子 (奈良女子大学)、栗原浩平 (室蘭工業大学)、齋藤輝幸 (名古屋大学)、 佐古井智紀 (信州大学)、高田暁 (神戸大学)、田辺新一 (早稲田大学)、 土川忠浩 (兵庫県立大学)、都築和代 (関西大学)、長谷川兼一 (秋田県立大学)、 松原斎樹 (京都府立大学)、宮本征一 (摂南大学)、山岸明浩 (信州大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温熱環境学術規準WG：室内温熱環境測定規準および温熱心理・生理測定法規準の改定、並びに、室内温熱環境設計学術規準の策定について検討する。</li> <li>・ 温熱環境情報発信WG：我が国における最近の温熱環境・温熱感に関する研究の動向を把握・評価し、将来の研究の方向性について検討する。</li> <li>・ 温熱快適域検討WG：温熱中性域・快適域に関する研究を整理し、温熱快適域に関する考え方について検討する。</li> <li>・ 温熱環境と健康WG：我が国における最近の温熱環境と人間の健康に関する研究を整理し、人間本位の温熱環境のあり方について検討する。</li> </ul>	
2022 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 小委員会および各WGにおいてオンラインによる委員会を開始し、情報収集、意見交換を行った。
委員会活動の問題点 ・ 課題	1. コロナ禍により、対面での情報発信が難しい状況にあったため、オンラインだけでなく対象に合わせた効果的な情報発信の方法について考えていく必要がある。

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由, 特記事項等)	<p>温熱感小委員会をオンラインで3回開催した。</p> <p>今年度は小委員会、WGとも最終年度となることから拡大委員会を開催し、温熱感研究に関するこれまでの活動報告を行うとともに、今後の課題、活動について意見交換を行った。また、次年度の熱シンポジウム開催の担当となることから、これまでの活動を踏まえた実施計画を検討した。</p> <p>オンライン会議の導入により小委員会、WGにおいて委員会の開催回数が増え、また多数の委の参加が得られたため、活発な議論を行うことができた。</p> <p>各WGにおいては以下の活動を進め、次期WGへの引継ぎを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温熱環境学術規準 WG：室内温熱環境測定規準の改定に向け、改定項目、新規追加項目等の検討を行った。</li> <li>・温熱環境情報発信 WG：温熱環境・温熱感に関する研究の動向を把握・評価し、社会的状況に即した温熱環境研究の方向性について検討した。</li> <li>・温熱快適域検討 WG：温熱中性域・快適域に関する研究を整理し、温熱快適域提案の方向性を検討した。</li> <li>・温熱環境と健康 WG：健康と温熱環境に関する研究について情報収集を行い、その現状と研究の方向性について把握した。</li> </ul>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。